

特集 子どもと平和構築



南スーダン：ガゼボを教室代わりに

Child Friendly Space

JCCP では子どもたちが日中に安心して遊べる場所を提供するために、ガゼボ（屋根のあるフリースペース）を中心に、滑り台やブランコなどの遊具を設置いたしました。



ガゼボの全景

紛争によって様々な人々が影響を受けますが、
子どもたちはとくに影響を受けやすい存在です。
子ども兵士が現実存在するように、子どもたちは被害者にも加害者にもなる
リスクを負っています。
一方で、紛争後の平和構築では、
子どもたちが国の将来を担う人材として期待されます。
紛争の影響を受けた子どもたちへの心のケアや教育の機会の提供が重要です。

KENYA

「平和の担い手」としての子どもたち

JCCP は、2010 年よりケニアのマザレ地区にある小学校や教会の一部を活用して、8 か所の「チャイルド・セラピー・ルーム」を整備しました。ここでは、訓練を受けたカウンセラー 30 名が犯罪被害者や犯罪のリスクにさらされている子どもや住民に対して心のケアを実施しています。2013 年からの 1 年間では、子どもに関わる合計 84 件の問題が解決されました。子ども達が抱える問題は、性的暴力を含む児童虐待、育児放棄、両親の別居等があります。例えば、暴力を受けたために話をできなくなってしまった女の子が、チャイルド・セラピー・ルームに置かれていた遊具を使って遊ぶことにより話ができるようになりました。カウンセリングにより子どもたちは自分に自信を持つ様になり、将来、ケニアの平和構築に携わっていくことになるでしょう。



清掃活動に参加する子どもたち

SOUTH SUDAN

子どもたちを取り巻く環境



チャイルド・フレンドリー・スペースで楽しむ子どもたち

人口の約 53% が 18 歳未満の子どもたちで占められる南スーダンにとって、子どもの置かれる環境を整えることは国の発展にとって非常に大事です。「毎日学校へ通えるようになること」、「綺麗な身なりをして差別を受けないようにすること」、「衛生的に過ごし、健康を維持できること」、日本では当たり前のことがまだまだ簡単には出来ません。お友達と学校帰りにおしゃべりをしたり、公園で遊び、遊具の

順番を待ちながら、年下の小さな子を思いやる気持ちを育み、いろいろな人間関係を学んできた私達、同じような環境が彼らにも必要なのではないのでしょうか。平和は、一人一人の健全な成長の結果作られていくものだと思います。

TURKEY

シリア難民～子どもたちへの影響～



カフェで物乞いをする子ども

トルコには 200 万人のシリア難民が滞在しています。国境地帯の難民キャンプだけでなく、都市部にも流入しています。なかには道端やカフェで物乞いをして生活の糧を得る子どももいます。ゼイティンブルヌ市では、子どもたちの更生のため、アイス・ホッケーのチームを結成したそうです。全員がかつて路上で生活してアルコールや麻薬を使用していた「ストリート・チルドレン」です。彼らは過去を話したがらず、新聞やテレビで顔が出るのも嫌がっていました。「アイス・ホッケーを始めたら『ゴミを集めていた連中だった』と言われた。でも今ではアイス・ホッケーの立派な選手だ。」今ではストリートチルドレンのロールモデルとして活躍しています。